

令和2年度 日本大学習志野高等学校 自己評価票

〔本校の目指す学校像〕

日本大学の建学の精神にもとづき、全人的教育を施し、国家及び社会に有為な人材の育成を教育目的としている。この教育目的を達成するために、

1. 自主創造の精神の育成
2. 高い理想と真剣な学習態度の育成
3. 知育・徳育・体育の調和的育成

を教育目標に掲げ、生徒一人ひとりが明るくのびやかな学校生活を送り、自主創造の精神を兼ね備えた人間性豊かな生徒の育成を目指している。さらに日本大学教育憲章に定める自主創造の教育理念のもとに、自ら学ぶ、自ら考える、自ら道をひらくことができる、協働力をを持った生徒の育成を目指している。

〔本校の特長〕

本校は、理工学部の併設高校であり、広大な大学のキャンパスの中に学校があるという極めて恵まれた教育環境を有している。進路の多様化に対応したコースとカリキュラムを有し、理工学部との高大連携教育が実践されていることを特長とし、真新しい校舎の中で、生徒一人ひとりが明るく伸び伸びと文武両道の学校生活を過ごしている。

〔本校の課題〕

- ・理工学部の併設高校としての高い教育力を更に発信していく。
- ・キャリア教育の充実を図り、生徒の学習意欲を高め希望進路が達成できるように教育環境を整える。
- ・各コースの充実を図るとともに、日本大学進学者の増加に向けての指導を推進していく。
- ・令和元年度入学生から iPad を学用品として採用し、タブレット端末と各教室に設置された電子黒板を用いて能動かつ主体的に考える能力を伸ばす授業を進めるなど、ICT教育の推進をさらに充実させる。
- ・令和元年度入試から新設したスポーツ推薦入試（剣道）を軌道に乗せ、入学した生徒の技能の向上を図り、剣道部だけでなく、全部活動の活性化を図る。
- ・国際社会に対応できるグローバル人材の育成を図る教育を推進していく。
- ・若手教員に対する育成プログラムを充実させていく。
- ・安定的な財源を確保しつつも募集定員を遵守し、適正な人数の入学者の確保に努め、経費の削減を推し進める。
- ・新しくスタートした大学入学共通テスト（新テスト）については、今後も情報を適切に収集し、高大接続を含めた効果的なカリキュラムや授業の在り方を検討する。

令和2年度の取組結果

〔概況〕

前年度の結果を踏まえ、学校全体で取組目標に向き合った結果、各部署ともにおおむね良好な取組結果・進捗状況を得ることができた。今後も「教員自己点検」等を活用し、PDCAサイクルを構築して、あらゆることに対して常に改善の意識を持つことができるようにしていく。

令和3年度生徒募集に関して受験者数を見てみると、A入試（本校第一志望）については大幅な増加がみられた。B入試においては小幅ではあるが増加し、ここ5年間でみても2番目に多い入試となった。今後は各部署で意見を出し合い、次年度の広報戦略を考え、受験生のさらなる獲得に努める。

新学習指導要領や高大接続改革の施行に向けての取組、入試制度、コース制、クラス編成、日本大学進学向上に向けた各種施策、教員研修など、今後も引き続き検証を進め、組織をあげてさらなる向上を図っていく。

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組	教育課程について、カリキュラム検討委員会で、教科主任との話し合いで単位数を入れるだけではなく、本校の特色を出せるカリキュラムが設定できるよう検討した。計6回の委員会を経て、令和4年度施行のカリキュラム(案)がほぼ完成した。	A
時間割作成システムの変更	新システム「アイデア」での時間割作成の検証を行い、操作が簡単で有能なシステムであること、担当者の負担が軽減できること、多くの条件設定にも対応できることの確認が取れ、令和3年度より稼働できるように準備できた。	A
年間行事予定の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業時間数」、「生徒指導(面談)」、「教材研究・学習指導案作成」、「部活動指導」等の確保のため、本年度は大胆なスケジュール調整を予定していたが、学校行事の見直しを十分に行うまでには至らなかった。 ・今年度は新型コロナウイルス感染症対策の関係で、1学期は大きく学校行事が変更となった。2・3学期においては、生徒のための教育活動が最大限展開できるように考えて変更した。今年度の変更等は令和3年度にも生かし年間行事予定を作成する。 	B

学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
いじめ防止のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本大学はいじめを絶対に許しません！」のリーフレットを教職員会議で配布し、いじめに対する共通理解と組織的な対応について確認した。 ・学年集会、保護者会、各学期始業・終業式に「いじめ」問題の現状と課題、モラルについて生徒に周知した。 ・「いじめ」は1件発生したが、教職員間で組織的な対応がしっかりできた結果、初期段階で鎮静化し、長期的で深刻なトラブルには至らなかった。 	A
多様化する生徒を適切に指導する	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活指導のガイドライン」の規定に従い、コロナ禍の中、生徒の心情や実態に寄り添う生活指導を学校全体で実施した。 ・頭髪・服装検査等は一斉で実施していないが、大きな乱れはほとんどなかった。 	A
生活環境の美化	コロナ禍であり、教室・校舎内・外の清掃方法について合理的な方法を探究することはできなかった。	C

課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒会活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉委員会で総額72,326円の募金を行った。 ・本年度の学校行事は計画どおりの実施ではなかったが、代替案で実施できた。 	B
部活動の安全の確保	<p>新型コロナウイルス感染症防止と対応のために以下のことを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「部活動参加に関するガイドライン」を作成して、保護者から承諾書を貰ってから部活動を再開した。 ・上記ガイドラインを県などから指導があるごとに改訂した。ホームページ等で保護者に周知した。 ・全ての部活及び体育館・武道館・トレーニングルームに手指用、用具用の消毒液を配布した。 	A

	・部活動のために外部から来校者がある場合には、非接触の体温計を準備した。	
--	--------------------------------------	--

進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
<p>日本大学への進学者数増加に向けた取組</p>	<p>日本大学への進学者数の増加に向けた取組や情報の発信は、教員と生徒と保護者の三者に向けて行っている。</p> <p>【生徒に対する啓もう活動】</p> <p>(1学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度から1年生全員がバスに分乗し、日本大学の希望する2つの学部を訪問する日本大学学部見学会を継続実施してきたが、コロナ禍のため中止となった。本年はオンライン説明会を通して新しく近代的な設備と長い伝統やハイレベルな研究の一端を垣間見ることができた。 9月にはオンラインで理工学部長講演を実施し、青木義男理工学部次長から理工学部の実績について御説明をいただいた。 8月に行われる理工学部のオープンキャンパスには毎年1年生の90%の生徒が参加している。本年はオンライン開催となり実際の施設は見学できなかったが理工学部への興味関心がさらに高まった。 日本大学理工学部の先生をお招きし、化学実験教室を1年間に数回実施し興味関心を高めた。 <p>(2学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> オンライン学年集会で日本大学附属推薦制度について詳細に説明し、進学を希望する学部学科に必要な学力養成を促した。 <p>(3学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月にオンライン日本大学推薦入試説明会をロングホームルームの時間に実施した。基礎学力テスト対策講習を5月からオンラインで開始し、緊急事態宣言解除後は放課後に対面で開催した。8月には4教科のオンライン基礎学力到達度テスト対策講座を行った。 <p>(全学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1・2・3年生ともにオンライン説明会に積極的に参加した。 <p>このように生徒たちは早い時期から日本大学進学に目を向けている。例年は6月文化祭では、理工学部各学科の先生方が説明ブースを開設し、生徒保護者に向け理工学部の研究・教育を説明していただくが、本年は文化祭が中止となり文化祭での説明会はできなかった。</p> <p>【保護者に対する啓もう活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路担当から保護者に日本大学を理解していただくために1年生進路指導説明会、2年生進路指導説明会、3年保護者会で日本大学の推薦制度についてオンラインでの説明を行った。各担任は8月と12月に実施された学期末の三者面談を通し保護者に日本大学の魅力を理解していただいている。 <p>【教員に対する啓もう活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本大学の卒業生である教員は多いが、自分の出身学部以外の他学部の研究や就職の詳細は知らない。さらに卒業後に時間が経ち、カリキュラムや設備など多くのことが変わっている。そこでオンライン日本大学の各学部説明会に教員 	<p>B</p>

	<p>が視聴し、日本大学を学び、再認識することでクラス担任から生徒に情報が伝達できた8月6日に行われた生産工学部の説明会は教員に対面で実施していただき、参加できなかった教員に対しては録画を配信した。</p>	
<p>学年及びコースごとのきめ細かな進路指導と将来目標の達成と進路情報の提供</p>	<p>【1年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部の先生による「化学実験教室」を開催し、理系進学者の進路選択、学習に役立てた。 ・外部テストを活用し、文理・コース選択判断の一助とした。 ・本校独自の進路情報誌「キャリアリポート」は、進路・職業観育成の一助として大いに活用された。 ・オンライン夏期講習を実施し、苦手科目の克服の一助とした。 ・月ごとに実施されるオンライン学年集会で進路についてコースや選択教科選択を説明した。 <p>【2年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CSTMUプログラムの一層の充実が図られた。コースごとの卒業生による受験講演も生徒の意識向上に役立った。 ・オンライン保護者対象進路説明会、オンライン学年集会、三者面談等で、日本大学の魅力や付属推薦制度の周知徹底を図った。 ・オンライン夏期講習を実施し、苦手科目の克服の一助とした。 ・過去問題集の販売を行い、基礎学力到達度テスト対策を促した。 ・月ごとに実施されるオンライン学年集会で進路についてコースや選択教科選択を説明した。 <p>【3年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付属推薦入試制度、進路情報の周知を徹底し円滑に進路指導を実践することができた。N入試1期では120名の生徒が日本大学各学部学科を希望し出願した。 ・日大チャレンジ特別進学模試や校内模試を実施し、予備校主催の模試受験も奨励した。校内で日曜を使い、外部模試を実施し成果を上げた。 ・共通テストには331名が出願し自己採点には179名が参加した。出願支援ソフトの活用や予備校の協力を得て、生徒・保護者への情報提供を行った。 ・理工学部進学者に大学の開放科目の受講を推奨した。 ・進学雑誌「蛍雪時代」を各教室に設置した。 ・放課後の補習授業、オンライン夏期講習（1・2期）、オンライン基礎学力到達度テスト対策講座を実施し、苦手科目の克服の一助とした。 	<p>A</p>
<p>大学入学共通テスト（新テスト）に対する取組</p>	<p>5月の教職員会議に講師を招き、新テストの方針について説明会を実施予定が中止となった。2年生保護者に対しては進路説明会の中で講師の先生から、新テストがどう変わり何を学べば良いかについて説明会を企画したが中止となった。2月のオンライン、2年生保護者対象進路説明会で第1回目の共通テストについて分析がなされた。3年は保護者対象の予備校講師による共通テスト等説明会をオンライン配信した。図書部と連携し共通テスト用の書籍購入も進めた。1年生生徒に対しても同様に説明会を実施し進路や学習についての不安を取り除いた。GTEC（1・2年生全員受験）、英検希望者対象に校内で受験など英語4技能に対して準備している。iPadやクラッシーを利用し各担任に対して情報提供に努めた。</p>	<p>A</p>

保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒の健康管理の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・定期健康診断を適切に実施し、その結果を保護者へ伝えた。また、必要な生徒に事後指導を徹底した。 ・疾病傷害時の適切な対応と関係者への連絡、災害共済給付の案内と申請手続が適切に行われた。 ・学校医・学校歯科医による定期的な健康相談及び指導が行われた。 	A
教職員の健康管理の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の結果に基づき、産業医の指示の下、衛生管理者(養護教諭)による保健指導及び産業医面談を実施した。その結果、専任・非常勤共に再検査及び精密検査者の受診率が向上し、健康への意識が高まった。 ・専任及び非常勤教職員の健康診断の受診率は、受診対象者100%であった。 	A
安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・運動部所属、医療系進学希望者、1年福祉委員の生徒を中心に救命講習を保健衛生部が主体となり、年2回実施した。また、保健体育科の協力を得て、保健体育の授業において実技による胸骨圧迫を1年生全員が学んだ。 ・新規採用の教職員、希望者対象の救命講習を年1回実施する他、上記の生徒向け救命講習も受講できるようにし、より多くの受講機会を与えることができた。 	A

図書

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
図書室の機能の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は新型コロナウイルス感染症の影響によって図書委員生徒による日常的な図書室カウンター業務は控えざるを得なかったが、図書委員による推薦図書の選定並びに機関誌「渡書」の発行によって積極的な情報提供を図ることができた。また、11月実施のオンライン部活動発表会の参加を通して、新しい発表形式による図書の紹介の可能性を垣間見ることができた。 ・「見本展示会」を10月21日(水)に実施し、多数の教員の協力を得て選書の充実を図ることができた。 ・ICT教育の推進により1・2学年全員がiPadを所持することとなり、その環境を有効活用すべく「電子図書館」を開設した。現在までに1,000件近くの利用数があり、生徒並びに教員の積極的な利用を見ることができた。 	A
研究紀要14号の発行	投稿者の確認、印刷業者との折衝、並びに見積書による予算申請など、令和3年度の発行に向けて具体的な動きを取った。	A

広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒募集の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度入試の志願者は、前年度入試に比べて194名の増加となった。 ・感染症対策のため、例年どおりのオープンキャンパスや学校説明会を開催できなかったが、YouTubeのライブ配信を利用した学校説明会を4回、専門業者に学校をPRする動画を制作して8月に2本、10月に4本公開するなど、例年とは異なるPR活動を実施した。また、少人数制での学校見学会も47回実施した。 ・オンライン学校説明会では、今年度より入試科目のワンポイントアドバイスを各教科主任から受験生へ発信し、入試に向けた各教科の取り組み方の要点を伝 	A

	えることができた。	
日本大学の教育理念「自主創造」と本校の校訓、教育目標・教育理念の周知	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内、ホームページ等において、日本大学憲章とともに、教育理念を紹介し、本校の教育の柱も分かりやすく伝えることができた。 ・学校紹介動画においても、学校長より日本大学憲章のもと、「自ら学ぶ、自ら考える、自ら道をひらく」という能力を身に付けることを目標としていることをしっかりと文字と言葉で伝えることができた。 	A

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
顧問教員の負担軽減 部活動の活性化	令和元年度から野球部において、競技スポーツ部の学生を試行的に指導者として招請した。今年度はさらに他部活動でも広げたいと考えていたが、感染症対策の影響で、野球部に対しての実施事態も今年度はできなかった。	D
施設・設備の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年9月台風の影響により体育館が大きく損傷し、床の張替え工事による体育館長期使用禁止を教訓とし、今年度は校舎施設の安全性の確認を随時行い、適切に対処できた。 ・防犯上の観点から、昇降口や駐輪場への防犯カメラの増設を行った。 	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

新型コロナウイルス感染症に関する対応と今後の課題について

<p>【対応】</p> <p>(教務)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨時休校中の学習支援の対応として、新たな取組である授業動画配信を実施した。実施に当たり、全生徒のICT環境を確認し、授業動画の作成を行った。「通常授業同様、板書での授業・説明を撮影する」方法や「パワーポイントなどの自作したファイルを画面収録する」方法など、各教員の創意工夫で実施した。終了後にはアンケートも行い、初めての試みではあったが、今後の研究・点検の良い機会となった。 ・年間行事については感染症対策の関係から大きく変更となった。現状を考え、今、取り組めることを優先に生徒の教育活動が最大限生かせる変更になるよう対応した。 ・授業内の教育活動に制限がかかり、生徒が活動できる場が減り残念な状況もあったが、現状できることを各教科で考え工夫し対応できた。 ・出席停止者に対する対応として、1学期中は欠席した日の授業内容を動画配信等で対応した。2学期以降は授業内容をまとめたプリント等で対応した。 <p>(生活指導)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一斉での頭髪・服装検査は実施せず、生徒の心情や実態に寄り添う生活指導を心がけた。 ・通学途中・学校内・教室において、大声を出さない、密にならないでソーシャルディスタンスを守るなど、生徒に対して新型コロナウイルス感染防止を注意喚起した。 ・全学年一斉対面での式典や避難訓練、学年一斉対面での生活指導、交通マナー・ソーシャルメディア講座が実施できなかったが、動画配信・YouTube形式など、ICTを活用することで代替することができた。 <p>(生徒会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者宛に「部活動に関する学校ガイドライン」を作成し、保護者から承諾書を頂いてから部活動を再開した。このガイドラインは県などの指導に伴いその都度改訂した。 ・文化祭の代替としてオンラインでの部活動発表会を行った。 ・体育祭の代替として密を避ける方策を講じてスポーツ大会を行った。 <p>(進路)</p>
--

・例年実施していた学部長講演・日本大学推薦説明会など多くの生徒や保護者を1会場に集めての実施ができないので 主としてオンライン実施となった。

・日本大学到達度テスト対策などの夏期講習会もオンライン実施を行い、いつでも視聴できるようにした。

(保健衛生)

・タブレットを活用し、「保健だより」等の保健衛生関連の案内は一部データ配布を実施した。

(図書)

・図書室並びに閲覧・自習室における対応については以下のとおりである。

開室時間を短縮し、土曜日は閉室とした。また図書室はカウンター受付のみとし、生徒の開架式書架への立入りを禁止して直接図書に触れさせないようにした。閲覧・自習室は席数を70席から35席に半減して間隔を置いて配置し、開室時間帯には換気のために窓を開放した。感染予防策としては、入口付近消毒液の設置、利用生徒の HR・氏名・入室時刻・退出時刻の記載並びにマスク着用の義務付け、カウンター・閲覧席のこまめな消毒、アクリル製遮蔽板のカウンターへの設置、貸出図書のポスト返却、返却後の図書の消毒などを実施した。

(広報)

・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オープンキャンパスや学校説明会が例年どおりに実施できなかった。それに代わるものとして、校舎見学会を夏と秋に、少人数の予約制で実施した。また、説明会についても日時を指定した動画のライブ配信の形式で実施した。

【今後の課題】

(教務)

・出席停止に対する対応について、現状では出席停止者に対し授業内容の配信やプリント等を配付することで対応しているが、先生方の負担も大きく大変である。生徒と教員にとって最善のものを模索していく。

・行事予定について、生徒の教育活動があつてこそその学校である。教育活動が生徒にとってよりよく展開できるように検討を行う。

・次年度より全学年でタブレットを一人一台持つため、ICT機器の活用を学校全体で行うことができる。授業での活用のみならず、教育活動全般での活用が課題である。

(生活指導)

・新型コロナウイルス感染症の状況がいつ収束していくか予想がつかない現況において、生活指導の注意喚起・講座・訓練などを一斉対面で実施できない場合を常に想定し、ICTを活用し配信ができる環境を準備していく。

・生徒個々の状況に合った現実的で柔軟な規定を鑑みて、生活指導のガイドライン・要項を周知・運用する。

(生徒会)

・本年度の施策を基にして、文化祭・体育祭などの学校行事がより活発に行えるようにする。

・ネット配信では著作権などの問題のため、作成したビデオ全てをオンラインに上げることができない。どの範囲まで配信して良いのか検証する必要がある。

・部活動参加に当たっては本校で作った「ガイドライン」を順守するように注意喚起する。

(進路)

・オンラインでの実施は先生方に多くの負担がかかったので、どこまでやれるかの検証が必要である。

・日本大学到達度テスト対策などの夏期講習会のオンライン実施において、質問ができないことにどう対応するか課題があった。

(保健衛生)

・クラッシーの「見ました」の確認で、1年生は設定がされているが、2年生の確認ができないので、設定を変更する。

(図書)

・感染対策の余波か、今年度は図書室蔵書の貸出数が激減してしまったため、電子図書館のコンテンツや図書紹介の機会を充実させることなどによって、生徒の図書利用の促進を図る。

(広報)

・校舎見学会を夏に18日間（合計23回）、秋に16日間（合計24回）と、かなりの回数を重ねたものの、感染症対策のため1回の定員数を10組までに絞った。そのため、受験生・保護者の方々から、見学したいが予約が満席のためどうにかできないかというお問い合わせを数多くいただいた。次年度に向け、感染症の対策と受験生や保護者の参加者数を増やす対策、どちらも両立できるような企画を考えなければならない。

・説明会については、動画のライブ配信形式で4回実施したが、いつでも受験生やその保護者、塾の先生方などが視聴できるように配信しても良いと感じている。ただし、視聴した人の出願率、入学率などを追跡調査のため、予約制にし、予約した人に対していつでも視聴できるURLを提示できるシステムにする。

令和3年度の取組目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組	新学習指導要領に向けて成績評価基準の見直しを行い観点別項目にも対応できるように検討する。	・教務部会で検討する。 ・新教務システム「中高プロⅡ」へ移行となるので、データ移行に注意を払う。
時間割作成システムの変更	新システム「アイデア」を使用しての時間割作成が令和3年度より始動するので、実際に担当者の負担を軽減させ、多くの条件設定にも対応できたかを検証する。さらに良いものとなるよう令和4年度に向けて再検討する。	4月開始版の見直しをGW明けに確認し中間試験後に変更を行うよう実施する。
年間行事予定の見直し	令和4年度に向けて、学校行事や会議等の見直しを進める。	一部署だけで進められるものではなく、学校や各部署とも連携を取りながら進める。

学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
いじめ防止のための取組	「生活指導のガイドライン」の理解を更に深め、全教職員間で適切な指導ができるように実践していく。	教職員を対象に「いじめ防止研修」を実施し、本質的な理解を深める。
多様化する生徒を適切に指導する	発達障害・ネグレクトなど、特別に配慮の要する生徒の情報などを教員間で適切に共有し、指導に生かせるようにする。	ICTを活用し、教職員間での情報共有を合理化する。
生活環境の美化	美化委員の活動が教室の環境美化に生かされるようにする。	教室・校舎内・外の清掃方法について合理的な方法を探究する。

課外活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
学校行事の円滑な移動	令和5年度には従来6月に行っていた文化祭が11月に移動になるので円滑に移行ができるようする。	新年度入学生が3年次になったときには11月に文化祭を行うこ

	移行のための概案を作成する。	とを伝える。
学校行事の充実（ネットでも対応できるようにする）	今年度オンラインで実施した文化祭など学校行事の質の向上と参加者の拡大	参加団体が早目に取り組めるように、ネットやソフトの外部環境を整える

進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
日本大学への進学者数増加に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・C S Tコースの魅力を周知徹底することで、理工学部進学希望者をさらに増やす努力を継続する。C S Tコース以外の生徒にもその魅力を発信するイベントを理工学部の先生方と計画する。 ・各学部で実施するオープンキャンパスに生徒が積極的に参加するように促す。また、教員は1・2・3年生から複数名が説明会に参加し、日本大学について情報を生徒に発信できるように研究する。特に新設の危機管理学部や、スポーツ科学部や新学科についても積極的に紹介していく。 ・生徒の希望する学部学科に推薦進学ができるよう学力養成により一層の努力をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本大学のあらゆる情報を発信し、魅力ある総合大学であることを生徒・保護者に伝えていく。 ・就職の良さなども紹介し、日本大学の魅力を大きくアピールする。 ・保護者対象の学部見学会を計画や説明会を行う。
各コースの充実	各コースの卒業生による進路説明会を実施し学習意欲の向上を図る。NPコースの進学実績を飛躍するために外部講師を入れる。新テストに向け、情報を収集し生徒や保護者に発信する。文章力や問題解決能力を高める講座を設ける。	早い時期での志望校決定を促し、進学に対するモチベーションを高める。
キャリア教育の充実	キャリアプログラム「16歳の仕事塾」を実施し、各方面において現役で活躍する専門家の講演会を実施する。卒業生や保護者の方に依頼し、キャリア講演会を行い、興味関心を高めさせる。本校独自の「キャリアレポート」をより充実させる。	活躍する卒業生を招き、自分の適性に合った職業に気付かせるとともに、社会貢献の意義を理解させる。

保健衛生

取組目標	取組方策	取組スケジュール
教職員の健康管理の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健康指導の受診率の向上 ・再検査・精密検査の受診率の向上 ・感染症予防の取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業医と衛生管理者(養護教諭)で連携して再検査・精密検査者に対するきめ細かい指導を行う。 ・学校医・産業医の協力を仰ぎ、校内での予防接種の実施を継続し、感染症の流行を抑制する。
相談室との連携	メンタルケアの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーと養護教諭、関係教員で緊密な連絡を取り、生徒に関する十分な

		<p>情報交換を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例検討を行い、必要に応じて本部よりスーパーバイズを受ける。
--	--	---

図書

取組目標	取組方策	取組スケジュール
図書の利用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭発表時における映像の活用など、図書委員活動の一層の活性化を目指す。 ・「見本展示会」の実施を継続し、教職員に加えて図書委員生徒が参加できるようにし、生徒自身による積極的な選書の機会を提供する。 ・電子図書館のコンテンツ数をより充実させ、利用の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・機関誌「渡書」の発行など図書委員による各企画を継続しながら、新しい情報提供の方法を模索する。 ・「見本展示会」は2学期中に実施する。 ・電子図書館のコンテンツは、各学期を節目に順次新着のものを公開していく。
研究紀要14号の発行	投稿者の原稿の取りまとめ、印刷業者への受け渡し、校正作業などを通して、年度中の発行を目指す。	9月上旬を投稿者の原稿締切とし、12月までに校正作業を終え、3月中に発行する。

広報

取組目標	取組方策	取組スケジュール
生徒募集の強化	志願者数を今年度より多く確保するため、受験生・保護者へ本校の魅力を伝える方法を工夫する。オープンキャンパスにおいては、校舎見学だけでなく、部活動の見学、ミニ体験授業も実施できるよう検討。学校説明会においては、国・数・英の先生より入試におけるワンポイントアドバイスも取り入れ、イベント参加率と志願者増を狙いたい。	部活動の見学やミニ体験授業は、実施可能な部活、教科から始める。
本校Webサイトの刷新、広報活動におけるSNSの利用	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットに対応した、動きのあるWebサイトを構築し、在校生はもちろん、受験生や保護者に本校に関する情報を効果的に発信する。 ・SNSを利用した広報活動を活発にして、多くの受験生や保護者へ、本校の情報を届けられるようにする。 	令和3年4月よりリニューアルした本校Webサイトを公開予定

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
顧問教員の負担軽減 部活動の活性化	令和元年度から野球部において、競技スポーツ部の学生を試行的に指導者として招請した。野球部での定着を図り、顧問教員の負担軽減と部活動の活性化につなげる。	新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度は実施できなかったため、感染症の状況も鑑みながら、令和3年度は再度実施していく。

適正な労働時間の管理	36労使間協定（作成された変形労働時間表）に基づき、適正な労働時間の管理に努め、職場環境の改善を図る。	「変形労働時間制に関する申し合わせ」を労働代表書と協議し、その適正運用に努める。
------------	---	--

中長期的目標の取組結果

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
CST（理工学部進学コース）の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・MUプログラムは、年を重ねるごとに充実度を深めている。コロナ渦の中でも感染予防対策を講じて、予定されたプログラムは形態を変更しながらであったが、全て実施した。 ・2年生は1年間かけて全学科の学科説明講義と学科独自プログラムを船橋校舎で受講。駿河台見学会や船橋校舎での懇談会を経て、自身の希望する学科を選択。 ・3年生は自身選択の学科プログラムに1年間参加し、12月の成果発表会においては、学科の特色を生かした意欲的な発表が展開された。 	A

保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
教職員の健康管理	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に産業医との面談に臨めるようにし、長期休職者が出ないように努めた。 ・インフルエンザ予防注射の接種率を上げ、教員が健康な状態で出勤できた。 ・コロナ渦の中、感染予防対策の徹底を促し、新型コロナウイルス感染症に罹患した教職員は出なかった。 	A

課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
スポーツ推薦入試の定着	令和元年度から新設したスポーツ推薦入試（剣道）を軌道に乗せることができ、入学した生徒の技能の向上が図られた。	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

中長期的目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
学校行事の見直し、行事のスリム化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の全面的な見直し ・修学旅行の実施時期・場所の変更（令和3年度入学生からシンガポール修学旅行） ・文化祭の実施時期の変更 	平成30年度から見直しを開始 令和3年度入学生が3年生になる令和5年度までに進める。
ICT教育の実践的導入、情報活用能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・授業・学習面での活用 ・校務面での活用 ・指導力の向上と研修の充実 ・情報モラル教育の徹底 	平成29年度から取組開始 平成30年度は全棟に無線LAN工事完了 令和元年度1年生よりipadを1人1台導入 全棟に電子黒板設置 令和3年度には全学年ipadを

		1人1台導入完了予定 ハード面からソフト面の充実に 向け、研究・研修を進める。
--	--	---

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
本校100周年に向けての施策	2029年の本校100周年に向け、第2体育館や部室棟の新設を視野に入れ、理工学部と相談の上、内容の検討を始める。	2021年度（令和3年度）より、委員会を立ち上げ、内容の検討を始め、2024年度までに内容をまとめる。2025年度から本格的に始動する。